

第 9 回 作手地域協議会 会議録【要約】

日時	令和 6 年 1 2 月 13 日（金） 午後 7 時 3 0 分～午後 8 時 5 0 分	(公開) ・一部非公開・非公開	
場所	作手総合支所 会議室		
出席者	委員 1 5 名（欠席者 8 名） 事務局 3 名	傍聴人数	0 名
次 第	<p>1 あいさつ</p> <p>2 情報の共有</p> <p>3 報告事項</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 第 8 回会議録について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) まちづくり計画の報告について</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 地域自治区組織案について</p> <p style="padding-left: 20px;">(4) 地域協議会のスケジュールについて</p> <p>4 その他</p> <p style="padding-left: 20px;">第 1 0 回作手地域協議会の日程調整</p> <p>(配布資料)</p> <p>次第、第 8 回作手地域協議会会議録【要約】、地域自治区 組織図、令和 6 年度(2 0 2 4 年度)作手地域協議会カレンダー、第 2 次作手地域まちづくり計画 1 0 年後の作手地域を見据えて</p>		

1 あいさつ

まちづくり計画について策定委員会から協議会へ提出され、協議会で最終決定をすることなので今後理解を深めたいと思う。

11月27日に全協議会の正副会長が集まる連絡会へ出席した。その時に議題に出た今後の協議会の組織の形について、今後検討していく必要がある。

荻野会長より挨拶。会議録署名委員を塚本寿彦委員、荻野晃江委員に依頼した。

2 情報提供

荻野会長より相寺区災害時安否確認・災害時協力井戸について策定し、内容の共有を行った。

3 報告事項

(1)第8回会議録について

事務局 第8回会議録を資料に振り返りを行った。市長との意見交換会の議事録について担当課で作成でき次第、配布する。

(2)まちづくり計画の報告について

会長 まちづくり計画策定委員会長の齋藤純子さんよりお願いします。

齋藤氏 これまでの計画を検証しながら来年度以降の計画を検討してきた。内容について決まったことについて報告する。
A4の資料について。将来像について話し合いの中で「住み続けたい 住んでみたい 行ってみたい 作手」になった。
まちづくりの方向性について、これまで行ってきた計画の柱を元に、単語ではなくイメージしやすい文章で考えながら進めた。話し合いをしている中で合言葉、スローガンを「ど元気！つくで」に決めた。合言葉を声かけあいながらみんなでまちづくりをやっていききたい思いがある。
まちづくりを進めるうえで大切なことは、決めたというよりは話し合いの中で大切だと思うことが出てきた。作手地区に限らず全国的に人口減少が進む中作手の強みは地域の絆がある。それが助け合い、支えあいに繋がる。作手は交流人口が多いので外から力をもらったり行政、学校、企業等も協働で行いたいと思う。
計画については住民一人一人が小さいことでも意識をもってもらうことを広めることがまちづくりに繋がると考えて進めている。
A3の資料について。柱1について農業・林業・自然環境に分野を分かれ、下の太字が実施していく内容。その下の丸印が取り組み事例である。計画書を見たときにこんなことができるのではないかと思える、緊急性のヒントになればと載せている。
これを元にこれまでのような冊子とパット見て行動に移りたくなるような概要版を作る計画である。

会長 質問がある方はどうぞ。

委員 情報発信・情報共有で SNS・インスタの活用についてつくで smile がある。連携して行ったほうが良い。

齋藤氏 この計画は協議会でやれることもあれば行政区や住民団体にやれることもある。

委員 すり合わせて行ったほうが効果的。

齋藤氏 今から始めることではなく、これまでやってきて知らないこともあるので知る機会にもなる。

会長 取り組み事例に太字があるが意味はあるか。

齋藤氏 間違えで意味はない。

会長 11月からまちづくり計画策定会議にオブザーバーで出席しているが小学生の意見を取り入れようとしたり、奥三河の自然とくらしを守る会のアンケートを活用したりして意見を吸い上げ熱意をもって会議を行っていると感じた。

齋藤氏 補足です。ヒアリングのところは、しゃべり場そらさん、消防団、わいわいクラブに行ってきた。
将来像について検証するうえで達成度の目安はほしいが策定委員会で話をしているがなかなか決められない。
冊子にするときには見えてないといけないねと話しているが現在は決まっていない。やったかやってないかの判断はできるが。検証の仕方は今後相談していく。

会長 策定委員会では計画をどうすれば実行できるかまで考えて検討している。目標を決定して終わりという感じではなく、どうすれば達成できるかを重視して考えている。
次の議題の組織のところでもかかわってくる。実行部隊、行動できる部隊を作っていく組織案である。
まちづくりの方向性はこれまでの計画と同じとなっている。

委員 確認だがまちづくり計画の立ち位置は、地域協議会のものではなくいろいろな団体が使うもの。作手住民がこの計画に寄って行って活動しましょうという意味合いでよいか。

事務局 この計画は協議会だけでなくまちづくりなので、作手地域皆さんで取り組んでいきたい計画になる。

委員 いろんな各団体をイメージしながら活動をしましょうねっていう計画になる。
そうなるといういろいろな見方があるのでKPIを何でとるかわむずかしい。1番大事なところはこの計画をどのように周知していくかだと思う。そもそも計画があることをどれくらいの方が知っているか。冊子を作るということで概要のところはこの計画を使ってこういう未来がみえるようになると思う。
先月もお話ししたが、絆だとかみんなで作ろうとしている。多くの計画がある中で今の委員さんはどの計画の優先順位が高いと思っているか。

齋藤氏 今言われた通りで先回の会議でこれだけの取り組み事例があるので各委員さんが優先順位を考えて集計しました、それを参考に絞っていいこうと思っている。

委員 これは素案で最終的には絞って出てくることですね。

齋藤氏 私個人の考えだと緊急性が高いものからになるかと思う。

委員 作手地区の将来像で「住み続けたい」のが誰かと考えたとき若い人が住み続けたく思うためには子供が高校に行くときに作手に住み続けていいのか。作手に住み続けることで子供の将来をつぶしてしまうことも考えられる。皆さんに聞きたいが子供、お孫さんが高校卒業した人で作手に残っている人がどれだけいるかお聞きしたい。帰ってきてますか。それがないので人が減っている。仕事があれば住み続ける。15, 6年生徒を教えたが帰ってきた子供は1人もいない。帰ってきてくれているから高校に通わせるか寮にするかわからないがそこをしないと引退した方が住み続けたいだけだといずれ終わってしまう。

副会長 自分の考えは少し違う。住み続けたいは、まず住んでいる方のこと。日本中の自治体を見ても増えている自治体はほとんどなく減っている。住み続けたいが1番にあるのは住んでいる人たちのことを1番に考えているかなと思う。

会長 今日の資料をまた家で見てもらって考えてみて今後に繋げたいと思う。計画を前期、中期、後期のように考えている話があった。冊子と親しみやすい概要版を作ると考えているとのこと。

齋藤氏 塚本さんが言われたとこだが項目に抜けているところがあれば入れてもらって、子供が戻ってこないのはもっと昔からの課題。

(3)地域自治区組織案について

会長 まちづくり計画と関連していて計画の実行部隊をつくる組織に変更していこうという案なので齋藤会長も聞いてもらえればと思う。事務局より説明してください。

事務局 新しい地域協議会の組織図が考えられた経緯を説明。地域計画が進まない現状について10あるすべての自治区で課題について考える検討会が発足された。作手地区でも歴代正副会長等8人で組織され令和4年度から5年度にかけて検討し提案書を市長に提出した。すべての自治区で提案された課題が3ページである。大きく分けて共通した原因が3つあり、1つ目は地域計画を実行する人材、団体の不足。2つ目に地域の拠点がない。3つ目に地域計画を推進するための仕組みがないこと。これらを解消する新たな組織案が5ページである。新しく地域計画推進組織を発足し地域計画の実行・管理を行う。運営に関して人的支援や拠点等を整備するための財政支援を行う。具体的な役割は6ページをご覧ください。あくまで役割は一例で地域性を考慮しそれぞれの地域で検討・決定が

できる。

また、地域協議会はなるべく計画実行に人手が必要なので人数を減らしスリム化を目指す。役割としては6ページにあるとおりである。

この組織案に移行しても現行制度を継続してもどちらでもよく、本実は報告になるので今後検討していただきたいと思う。

委員 地域協議会委員の選出について市の職員を選出できるか聞きたい。また文書等で規則があるのであればもらいたい。

事務局 調べて後日連絡する。

会長 新組織に移行するならどのようなスケジュールを考えているか。

事務局 決めなくてはならないこともあるので、来年度中に体制を整え再来年度からを考えている。今年度中に移行することが決まれば来年度すぐに検討できると思う。

会長 新体制に移行するなら組織づくりの協議や人選をしなくてはならない。1年間をあけて令和8年度から移行するなら令和7年度の地域協議会の中で協議ができる。まちづくり策定委員からするとはやく実行組織ができればと思っているのではないか。

齋藤氏 新組織は実行組織を作るための組織だと思うが、推進組織になると2度手間になると思う。活動内容についてもすぐできる組織になるようわかりやすくする必要がある。これまで組織ができなかった、人材を発掘できなかった経緯があるので組織の中身が推進ではなくて実行になるような内容にするべき。これまで活動し続けている団体があるので役割を考えたほうが良い。この図ではまた新しい組織を作るのかと見える。

事務局 新体制に移行するならば体制、役割など実状にあったものを検討する必要がある。決めることも多いので移行するかどうかを決めるのは早いほうが良いのでは。

会長 新組織に移行するにあたりメンバーが揃うのか。例えば協議会メンバーを半分にして残りのメンバーを実行組織入ってもらえる人は入ってもらうとか。70過ぎても働いており本当に人が少ない。新組織を作るにあたり難しいところだと思う。

齋藤氏 活動の受け皿になるような組織。この計画の部分の部分を担ってもらいこれまで協議会ではできなかったところができるような実行組織にする必要がある。

事務局 また意見をください。

会長 ①推進組織事務局運営費補助の財源は自治区予算とは別か。

事務局 自治区予算とは別です。

会長 ②推進組織拠点として事務局として案はあるか。

事務局 個人的考えだがつくで交流館をイメージしている。

会長 パソコン等を整備する。

事務局 そういうことです。

会長 事務員雇用とあるが専門で雇うのか。

事務局 作手地区には自治区が1つだが、新城鳳来では5つ4つの自治区がある。今は市役所の中に新城鳳来は1か所にそれぞれの事務局があるがより地元に入って話がしたいので拠点として事務所を構える。そこで常駐して行うときの事務員の経費となる。

会長 細かいところが明確化し吟味しないと判断ができない部分があるので、年度末までに移行するのは難しいと思う。1年間検討をしたり、取り入れる自治区の様子を見ながら令和7年度に考えていったらと個人的に思う。1月の協議会で方向性を決めないと対応が難しいと思うので1月に検討したいと思う。

(4)地域協議会のスケジュールについて

会長 これからの協議会の予定を確認する。

事務局 1月に1回。2月7日は交付金の勉強会、16日に交付金審査会。当初スケジュール表には記載がなかったが3月14日に13回協議会を行う。この時にまちづくり策定委員からまちづくり計画を協議会へ提出してもらおう。

会長 第1回協議会時に1年の総括を行う旨を話した。3月の協議会時に行う。

1月は新組織移行について協議、方向性の決定、来年度の協議会について説明を行う。2月はじめの協議会で交付金の説明以外に新組織について協議をする時間を入れたいと思う。3月にはまちづくり計画に関して協議してより良い計画にしたいと思う。

4 その他

(1) 第10回作手地域協議会の日程調整

日時：令和7年1月17日（金）午後7時30分から

場所：作手総合支所 会議室

内容：新組織移行に関する検討

来年度作手地域協議会委員の推薦書、承諾書の説明

【終了】